

- 主題名 「誠実に実行する」
- 内容項目 A 自主、自律、自由と責任（関連項目 A 向上心、個性の伸長 B 礼儀）
- 教材名・出典 「ネット将棋」（出典：文部科学省 中学校道徳読み物資料）
- ねらい 登場人物の僕と敏和の言動や気持ちを通して、自主的に考え、誠実に実行しようとする実践意欲や態度を育む。

■展開

	学習活動	授業者の発問や指導内容と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 教材「ネット将棋」について知る。	○棋士 羽生善治さんや棋士 藤井聡太さんを知っていますか。 ・知っている、自分も将棋をする。 ・名前だけ知っている。	・棋士 羽生善治さんに棋士 藤井聡太さんが勝ち、羽生さんが「負けました」と言う動画を見る。 ・将棋のルールやマナーについて知る。
展開	2 教材「ネット将棋」を読み、内容について話し合う。	○敏和に、共感する部分とそうでない部分をあげよう。 ・見えない相手に礼をつくしているところが共感する。 ・自分にも相手にも正しい言動をしている。 ・敏和は「負けました」と言えるが、自分は言えない。 ○僕に、共感する部分とそうでない部分をあげよう。 ・自分も相手が見えないので、ログアウトすると思う。 ・負けを認められない気持ちは共感する。 ・相手に対して失礼でゆるせない。 ・敏和は自分に負けている。共感できない。 ◎＜中心的な発問＞ 敏和と僕は、それぞれどのような人物だと思いますか。 様々な角度から考えてみましょう。 ・敏和は自分に強い人。僕は自分に弱く負けている人。 ・敏和は礼儀をもっている人。僕は自分勝手な人。 ・敏和は自分の気持ちを冷静にコントロールしている人。 僕は自分の感情に正直な人。 ・敏和は清い人。僕は人間味がある人。 ○＜補助発問＞ 2人は、皆の出してくれた意見の中の、どの思いから、礼をつくしたり、ログアウトしたりするなどの言動をとったのだろうか。 ・敏和は、清らかな気持ちがあるから、礼をつくせる。 ・僕は、自分に弱いから負けを認められずログアウトする。	・教師が範読する。 ・教師がモニターで教材の内容と関連図を示す。 ・板書により、発言を整理する。 ・敏和と僕、それぞれに共感する部分と共感そうでない部分を発言させ、生徒が登場人物に自分自身を重ねられるようにする。 ・4人班になり、ワークシートを活用して話し合う。 ・いくつかの班が、話し合いで出た意見を発表する。 ・板書に生徒の言葉を追加していく。 ・生徒に敏和と僕の人間性を多面的に考えさせる。 ・補助発問により、自主的に考え、判断し、実行する流れをつかむ。
	3 自分自身の問題として誠実に実行することについて考える。	○＜主題に迫る発問＞ 人として自分で考え、判断をして、誠実な行いをするには何が大切だろうか。 ・自分の弱さに負けず、強い気持ちで正直に行動する。 ・自分の中の清い気持ちを大切にする。 ・自分や他人にとって、よりよい事を考えて行動する。	・ワークシートに記入し、個人で深めてから発言する。 ・主題について、生徒が自分事をこえた、人としてどうあるべきかを考えられるようにする。
終末	4 本時の学習で感じたことや考えたことをまとめる。		・ワークシートで、振り返りを行う。

■評価

- ①自主的に考え、誠実に実行しようとするについて、生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させていたか。
- ②自主的に考え、誠実に実行しようとするについて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていたか。

■主題設定の理由

主題を「誠実に実行する」とした。中学生の時期には、自ら考え、判断をして実行する態度が身に付いてくる。自ら考える「自主、自律」は、深く考えずに多くの者に付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりすることではない。また、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとることではない。悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付かせていきたい。

「誠実に実行」するとは、すがすがしい明るい心で、私利私欲を交えずに真心を込めて具体的な行為として行うことである。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。その為、日常のどのような小さな行為においても、自ら考え判断し、誠実に実行し、その結果を失敗も含めて自己の責任として受け止めることができるようになって欲しい。以上のことを生徒自身に自分事として考えさせたいと願い、本主題を設定した。

■指導の工夫

【主題に迫る発問の工夫】

「誠実に実行する」という主題に迫る発問までの展開としては、登場人物の僕や敏和の言動や心情に共感する部分とそうでない部分を考え、生徒が登場人物の心情を自分事として捉えられるようにした。そして、主題に迫る発問は、「人として自分で考え、判断をして、誠実な行いをするには何が大切だろうか。」とした。この発問により、生徒が今後の人生の中で、「誠実に実行する」事を自分事として考えたり、自分事を超えた、より人としてどうあるべきかを、深く考えたりする事ができるようにした。生徒が「誠実に実行する」事について考えやすくなるように、最初の発問で出た生徒の発言を、視覚的に分かりやすく板書を工夫した。また、補助発問で「2人は、皆の出してくれた意見の中の、どの思いから、礼をつくしたり、ログアウトしたりするなどの言動をとったのだろうか。」を問い、生徒の発言をつなぎながら、自主的に考え、判断し、実行する流れをつかむ工夫を行った。

【登場人物を俯瞰する発問の工夫】

展開の最初で、僕と敏和の2人を比較する発問を行う。この発問は、どちらに対しても生徒が「共感する部分」と「そうでない部分」をあげさせ、2人の登場人物を俯瞰する形とした。それにより、生徒の多様な見方や考え方を引き出せるようにした。中学生の段階では、正しさが分かっている、できなかったり、正しく無い事でも行ってしまったりする事がある。そのような生徒の気持ちを登場人物に共感する形で、表出させ、それを受けとめる事により、生徒が自分の気持ちを素直に発言できるように工夫をした。生徒から出た素直な発言からつなげて、主題である「誠実に実行する」を深く考えさせていく展開としたい。

■板書計画

- ・自分の弱さに負けず、強い気持ちで正直に行動する。
- ・自分の中の清い気持ちを大切にする。
- ・自分や他人にとって、よりよい事を考えて行動する。

人として自分で考え判断をして、誠実な行いをするには何が大切だろうか。

人間味がある
感情に正直

僕

清い人
強い人

敏和

ネット将棋

失礼
自分勝手
礼儀がない
負けを認められない

相手が見えないから平気
ログアウトする
自分に正直

負けを認めている
弱さがない
大人すぎる

誠実
礼儀
強い
挨拶
正しい

そうでない

共感する

そうでない

共感する

